

◎読書週間（10/27～11/9）でした

読書週間に合わせて、図書紹介リーフレット「いい本、みつけた」が配布されました。今年は紙での配布は希望する園、学校のみとなり、データでの配信となりました。今回も情報館が全面的に協力し、3ヶ月以上の日数をかけて丁寧に選書、作成させていただきました。“学校から帰宅した3年生の息子が、「ママ、気になる本があったよ！」と言って紙のリーフレットを見ながら一緒に本の話をしました。”などのお声をお聞きし、大変嬉しい気持ちになりました。リーフレットを見ながら親子で本の話をして家読につながるとよいですね。紙のリーフレットも図書室など、子どもたちの目につくところに掲示していただき、有効利用していただけましたら幸いです。

◎読み聞かせの仕方についての授業 下条中3年生



下条中3年生が下条小1、2年生に読み聞かせをするにあたり、「読み聞かせの仕方についての授業」のご依頼をいただきました。

絵本は、子どもが最初に出会う大切な読みものであり、子どものことをよく理解して作られたものであるということ、良質な絵本は、読む年齢によって違う感じ方をしたり発見があるということをお話しました。また、読み聞かせをする際の読み方、本の持ち方についても、生徒のみなさんは大変熱心に聞いていました。絵本『てぶくろ』の読み聞かせを聞いてもらった後、2人組になり、各自用意してきた本で、互いに読み聞かせの練習をしてもらいました。注意することに気をつけながら、初めてとは思えないほど上手に読んでいる生徒のみなさんの姿に驚きました。

後日、「秋の読み聞かせの会」で実際に1、2年生に読み聞かせをした写真をいただきました。聞き手に見やすいように本を持ち、姿勢よく自信を持って読んでいる姿がとても美しいです。読み聞かせをしてもらった経験は記憶され、継承されていくと思います。小学校と中学校でこのような交流がされているのは素晴らしいと思いました。



◎子どもたちのお話を受け止める力について

先日、絵本についての研修を受けました。感じるアンテナがどれだけあるのかは人それぞれで、アンテナが鈍いと、物語を読み取る力や感じ取る力が弱いのだそうです。20年以上子どもたちに読み聞かせをしてきて、ここ数年の子どもたちのお話を受け止める力について、少し変わってきているように感じています。ひとつには、子どもたちを取り巻く環境が凄まじいスピードで変わってきてその影響が色々な形で表れているのかもしれません。絵本も、昔から読まれているロングセラーに比べ、過剰な説明などで、想像力を必要としないような単純でわかりやすいものに変わってきているようにも思います。子どもたちの力を信じて、受容力を育めるような選書が大切だと感じます。心のどこかにひっかかり、また読みたいと思えたり、心豊かにじっくり想いを巡らせたりすることができるお話を、今後も子どもたちに届けていきたいと思います。



★出前授業や読み聞かせ、ブックトーク、ブックスタート、出張貸し出し、絵本の日など情報館から様々な形で子どもたちに本を届けています。